

参 考 資 料

第 9 3 1 回定例会（令和 8 年 8 月）

●報告第 1 号

令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果について

P 1 ～P 5

●議案第 1 号

青森県公立中学校における部活動の地域展開推進計画（第 2 版）について

P 6 ～P 7

●議案第 3 号

県立特別支援学校の校名変更について

P 8 ～P 9

令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果について

(1) 本県（公立）の平均正答数・平均正答率・平均 IRT スコア

教科	小学校		中学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学	英語（「話すこと」を除く 3 技能）	
平均正答数	7.9/13 問 (7.9/13 問)	8.7/16 問 (9.0/16 問)	9.5/15 問 (9.6/15 問)	8.8/16 問 (9.1/16 問)	平均 IRT スコア	476 (499)
平均正答率	60% (60.9%)	55% (56.4%)	63% (63.9%)	55% (57.0%)		

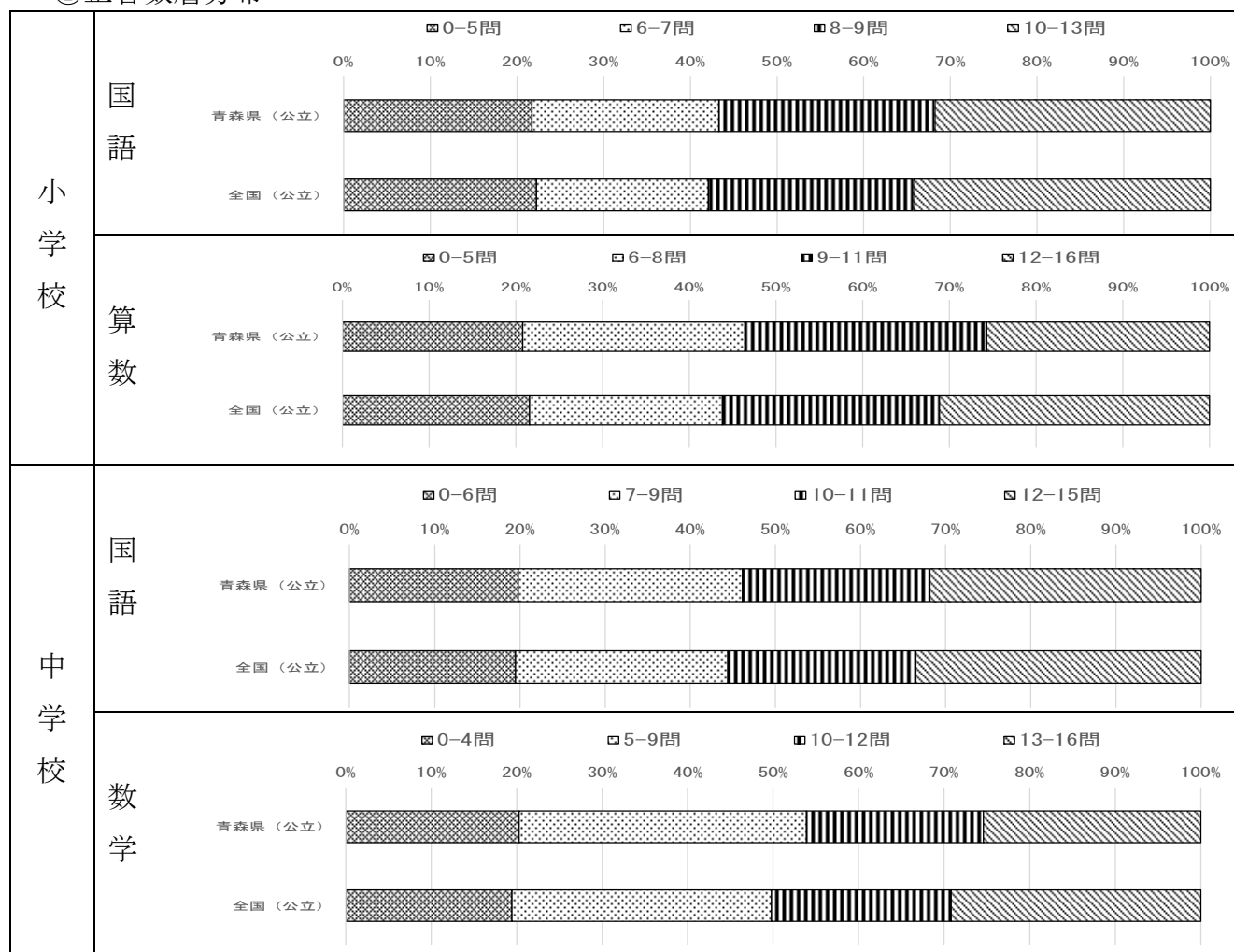
※表の値は、本県（全国）である。

※中学校英語は CBT（Computer based test）で実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。「話すこと」については結果が未公表であり、3 技能（「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」）のみの数値である。

※文部科学省は、「細かな桁における微少な差異は学力面で実質的な違いを示すものではないと考えられることから、都道府県別の平均正答率は整数値で公表」としている。

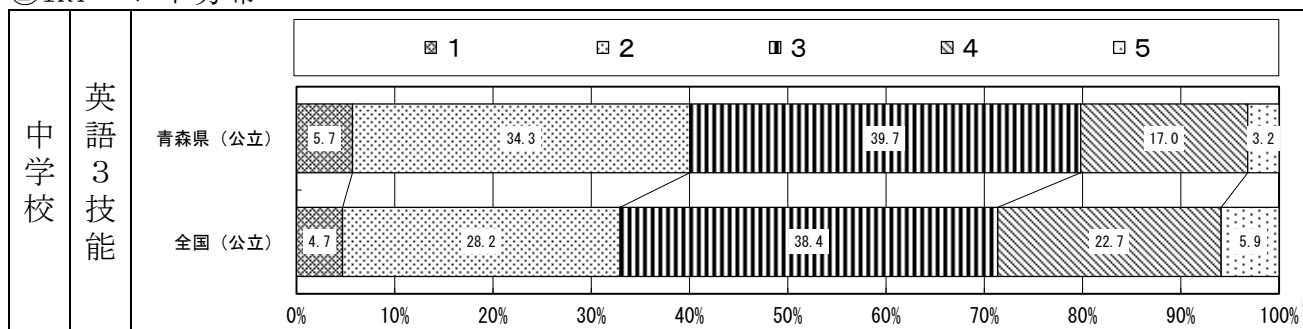
(2) 分布比較

①正答数層分布



※正答数層分布は、正答数に応じて 4 つの区分に分けてその構成を示したものである。

②IRT バンド分布



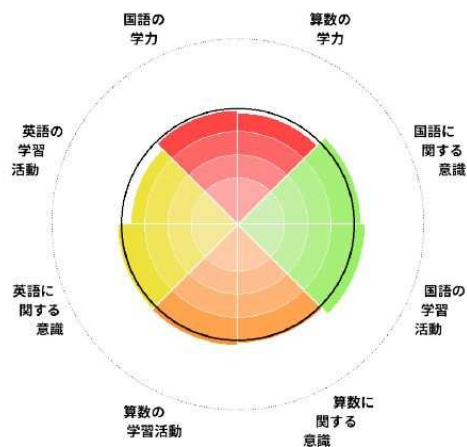
※IRT バンド分布は、5つの区分に分けてその構成を示したものである。

(3) 各校種ごとの調査結果を図示したもの

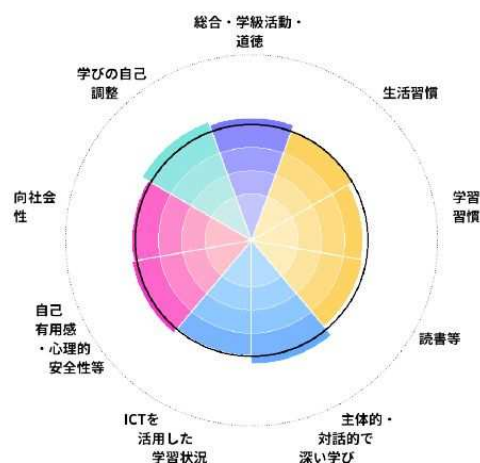
① 小学校

学校数	児童数
237	7,936

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
(全国基準)



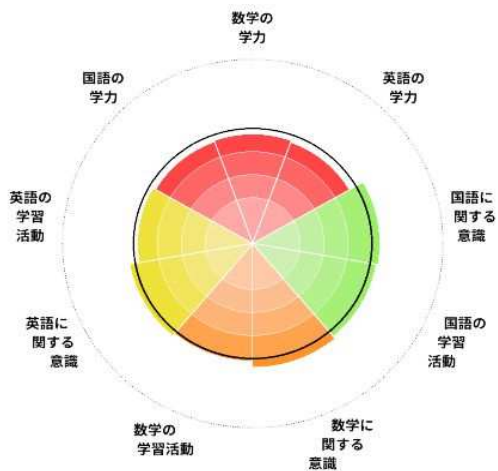
〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
(全国基準)



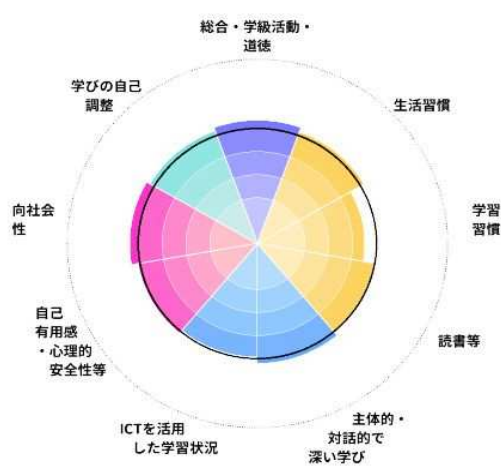
② 中学校

学校数	生徒数
146	7,698

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
(全国基準)



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
(全国基準)



※文部科学省が作成した教科に関する調査および児童質問調査の結果を標準化したチャート

(4) 児童・生徒質問調査について

※表の数値は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」又は「している」「どちらかといえばしている」等の合計で、()内は全国平均との差である。(以下、同様)。

①教科を中心とした学力・学習状況

・小学校 国語の学習活動

	質問事項	令和8年度
(54)	国語の授業内容はよく分かりますか	84.4% (+2.9)
(56)	国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこか伝えてくれましたか	83.5% (+5.4)
(57)	国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこか伝え、どうしたらうまくできるようになるか教えてくれましたか	81.8% (+6.7)
(58)	国語の授業で、文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていましたか	84.2% (+3.5)
(59)	国語の授業で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめていましたか	81.7% (+3.4)

・中学校 数学に関する意識

	質問事項	令和8年度
(60)	数学の勉強は得意ですか	48.8% (+0.3)
(61)	数学の勉強は好きですか	58.7% (+2.6)
(63)	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	80.3% (+3.8)
(64)	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていましたか	70.2% (+7.2)

②その他の学力・学習状況

主体的・対話的で深い学びに関すること

・小学校

	質問事項	令和8年度
(38)	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	67.0% (+0.6)
(39)	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	80.4% (+2.8)
(40)	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	76.0% (+2.6)
(41)	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	83.0% (+2.2)
(42)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	87.5% (+1.8)

(44)	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思えますか	85.8% (+5.0)
(46)	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	92.8% (+1.4)

・中学校

	質問事項	令和8年度
(38)	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	62.4% (-3.1)
(39)	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	79.2% (+0.4)
(40)	1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	70.5% (-0.3)
(41)	1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	79.9% (+1.0)
(42)	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	89.1% (+2.1)
(44)	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思えますか	82.6% (+4.6)
(46)	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	93.2% (+0.8)

・小学校

学びの自己調整に関すること

	質問事項	令和8年度
(22)	分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	83.1% (+3.7)
(43)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	82.4% (+4.0)

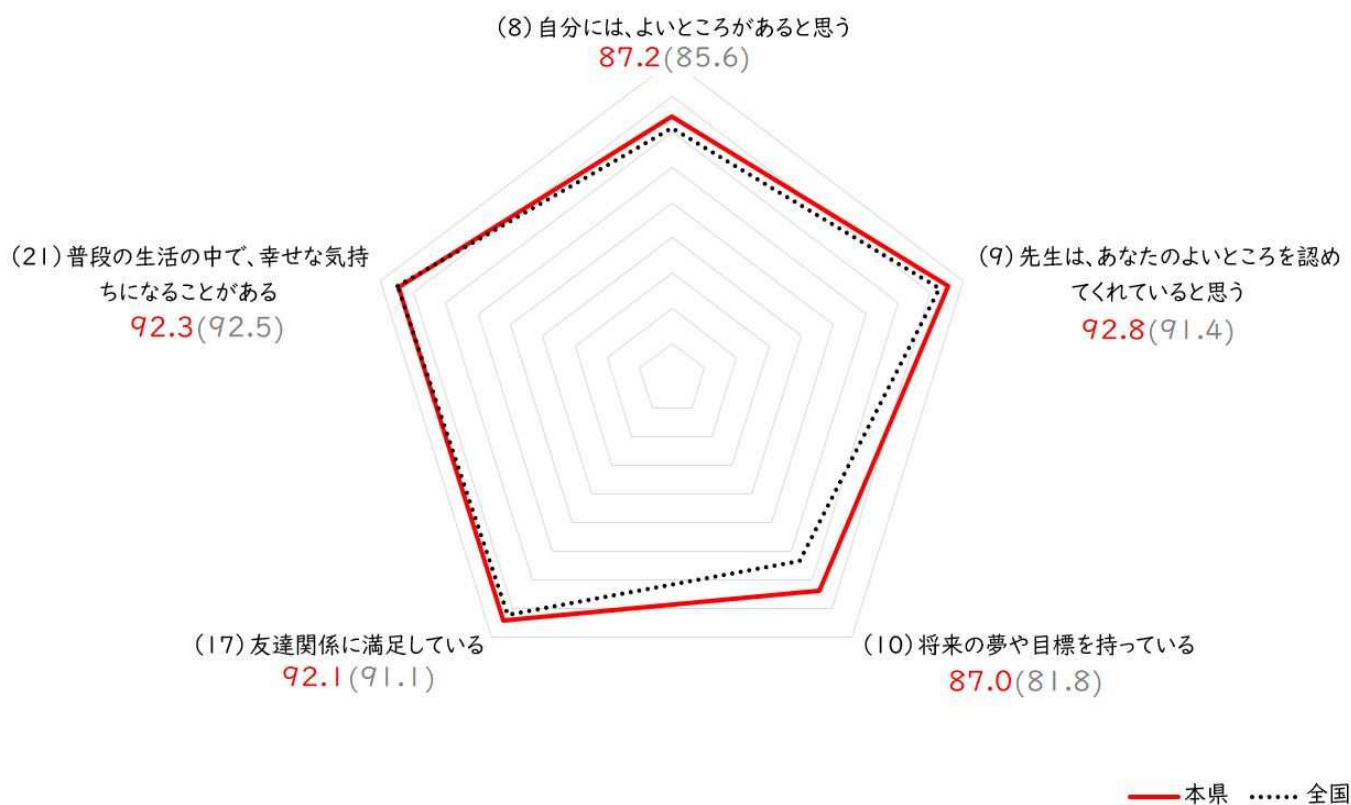
・中学校

向社会性に関すること

	質問事項	令和8年度
(11)	人が困っているときは、進んで助けていますか	92.8% (+2.0)
(12)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	95.5% (+0.4)
(14)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.5% (+0.6)
(33)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	75.3% (+3.0)

(5) 児童生徒のウェルビーイングに関する状況

①小学校



②中学校



青森県公立中学校における部活動の地域展開推進計画〔第 2 版〕の概要について

1 改訂の趣旨

少子化が進展する中、部活動は従前の体制で運営していくことは難しくなってきたおり、文部科学省では、令和 4 年 1 2 月に策定した「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を改訂し、令和 8 年度から令和 13 年度までの 6 年間で「改革実行期間」と位置づけ、部活動の地域展開を推進することとしています。

本県においても、今後も少子化が進むことが見込まれる中、全ての生徒が生涯にわたってスポーツ・文化芸術活動に継続して取り組むことができる環境を整え、とともに、休日を利用した多様な活動に取り組むことができる環境を整えていく必要があることから、国の動向や県内各市町村の取組状況等を踏まえ、令和 5 年 4 月に策定した推進計画を改訂するものです。

2 改訂の経過

「公立中学校における部活動の地域展開推進会議」（学識経験者、学校関係者、スポーツ・文化団体等の関係者）において、改訂内容を協議。（令和 8 年 1 月、2 月）

3 主な改定内容

◎ 青森県の目指す姿 （別紙 1 3 ページ）

〔休日の部活動〕

- 文部科学省が示す「改革実行期間」（令和 8 年度～令和 13 年度）の「前期」（令和 8 年度～令和 10 年度）内に、原則、全ての部活動において休日の地域展開を目指す。
- 「前期」中、部活動を行う場合、教員の指導による活動は、休日は行わないことを基本とし、部活動指導員の配置や合同部活動等の「地域連携」に取り組む。
- 部活動指導員の配置が難しい場合であっても、オフシーズン期間の休日は教員の指導による部活動は行わないなど、教員の働き方に留意する。
- 前期終了年度内には、それまでの期間における進捗状況等について中間評価を行い、後期（令和 11 年度～令和 13 年度）においてその結果を踏まえた取組を推進する。
- 地理的な特殊事情など休日の地域展開の実施が困難な部活動についても、当面の対応として、部活動指導員等の配置や合同部活動等の地域連携の取組を推進する。

〔平日の部活動〕

- 国の取組状況等を参考としながら、可能な部活動から改革実行期間において地域展開の実現を目指す。
- ※ 部活動の実施に当たっては、休日に部活動を行わない場合であっても、平日は少なくとも 1 日の休養日を設定する。

◎ 令和８年度～令和１３年度の取組 （別紙１４ページ）

〔県の取組〕

- 「地域クラブ活動推進に関する市町村担当者協議会」を開催し、国の動向、他県の先進事例、実施方法等について情報共有し、各市町村の取組を支援する。
- 地域クラブ活動における指導者を確保するため「人材バンク」を運用する。
- 市町村や関係団体等との連絡調整、広域連携の取組に向けた連絡調整等を行う総括コーディネーターを配置する。
- 指導者の資質向上に向けた研修会を実施するとともに、地域クラブ活動の大会等への円滑な参加に向けて県中学校体育連盟及び県中学校文化連盟との連携を図る。

〔市町村及び学校の取組〕

- 部活動の地域展開に向け、検討委員会の設置や推進計画の策定・見直しを行い、地域展開に向けた検討を進める。
- 県の目指す姿の内容を踏まえ、休日及び平日の部活動の地域展開等に取り組む。
- 国が示す認定要件、認定手続き等に基づき、各市町村において地域クラブ活動の認定を行う仕組みを構築するとともに、運営団体等への支援・指導助言等を丁寧実施する。

県立特別支援学校の校名変更について

「青森県立青森若葉養護学校」及び「盲学校・聾学校」の校名変更について、青森県特別支援教育在り方検討会議（以下、「検討会議」という。）の意見を踏まえ、下記のとおり取扱うこととする。

記

1 青森県立青森若葉養護学校について

弘前・八戸地区の公募校と県立学校としての統一が図られ、かつ児童生徒に混乱が生じにくいと考えられる、「青森県立青森わかば支援学校」に変更する。

現在	取扱い	
青森県立青森若葉養護学校	候補 1	青森県立青森若葉支援学校
	候補 2	青森県立青森わかば支援学校
<検討会議の概要> 検討委員からは漢字のままとする案も出たが、絶対に漢字とすべきという強い意見ではなく、ひらがな表記への好意的な意見が複数の検討委員から出された。		

【実施時期 令和9年4月1日】

2 盲学校・聾学校について

本県では盲学校・聾学校を同一校舎に併設している事例があるため、県立学校としての統一感を考慮すると校名変更は併設している両校同時に行われるべきだが、関係団体からの理解が十分に得られている状況ではなく、検討委員の多くも変更することに反対していること等を踏まえ、令和9年4月1日の校名変更は見送る。

現在	取扱い	
盲学校・聾学校	候補 1	盲学校・聾学校のまま
	候補 2	視覚支援学校・聴覚支援学校へ変更
<検討会議の概要> 検討委員からは、もう少し丁寧に検討を進める必要があるため、議論を急ぐべきではないといった、校名変更への反対意見が多数を占めた。		

3 県立特別支援学校の校名一覧（想定）

上記取扱いを踏まえ、既に教育委員会会議で決定した校名を含めた一覧は以下のとおりである。

	令和8年度までの校名	令和9年度からの校名
今回の検討対象	青森県立盲学校	青森県立盲学校
	青森県立八戸盲学校	青森県立八戸盲学校
	青森県立青森聾学校	青森県立青森聾学校
	青森県立弘前聾学校	青森県立弘前聾学校
	青森県立八戸聾学校	青森県立八戸聾学校
	青森県立青森若葉養護学校	青森県立青森わかば支援学校
今回変更しない	青森県立青森第一養護学校	青森県立青森第一養護学校
	青森県立青森第二養護学校	青森県立青森第二養護学校
	青森県立青森第一高等養護学校	青森県立青森第一高等養護学校
	青森県立青森第二高等養護学校	青森県立青森第二高等養護学校
	青森県立八戸高等支援学校	青森県立八戸高等支援学校
既に決定済	青森県立弘前第一養護学校	青森県立弘前いわき支援学校
	青森県立弘前第二養護学校	青森県立弘前さくら支援学校
	青森県立八戸第一養護学校	青森県立八戸あさひ支援学校
	青森県立八戸第二養護学校	青森県立八戸きぼう支援学校
	青森県立森田養護学校	青森県立森田支援学校
	青森県立黒石養護学校	青森県立黒石支援学校
	青森県立浪岡養護学校	青森県立浪岡支援学校
	青森県立七戸養護学校	青森県立七戸支援学校
	青森県立むつ養護学校	青森県立むつ支援学校

※下線部は変更箇所。